報　告

アメリカにおける幼児教育・保育
― UCLA Early Care and Education への訪問 ―

鈴　木　裕　子

Ⅰ．はじめに

2005年、米国カリフォルニア州ロサンゼルス市を訪れることになった。この機会に、なんとか保育・幼児教育に関わる施設を見学できないかと考え、インターネット等を利用して探し出した施設に、思いきって、E-mailで訪問のリクエストをした。── It would be our pleasure to welcome you as a visitor. ──

University of California, Los Angeles（UCLA：カリフォルニア大学ロサンゼルス校）のEarly Care and Education。UCLAに関連し、Early Care and Educationとして、UCLAの広大なキャンパスの北西の端にあるKrieger Center、キャンパス内のElementary School内のFernald Child Care Center、キャンパスから5マイルほど離れた家族向け学生アパート群内のUniversity Village Centerの3施設がある。

UCLA内で仕事する親、学生である親への支援を目的としており、1970年にKrieger Centerでそのサービスが始められた。2ヶ月から5歳までの子どもが在籍し、University Village CenterにはKindergarten（5歳～6歳の小学校入学前1年間）も併設されていた。

2005年5月にKrieger Center、9月新学期にはUniversity Village Centerと、再度Krieger Centerを訪問した。

Krieger Centerを訪問した筆者に対応してくださったのは、Executive Director（UCLA Early Care and Educationの3施設統括のDirector。いわば園長。普段はKrieger Centerに席を持っている。）のGay Macdonald氏と、DirectorのSue Ballentine氏であった。いずれも女性。

初回の訪問時には、Gay Macdonald氏より3施設の概要の説明を受けた後、Krieger Center内において施設及び各クラスを、担当の教師の説明を交えながら見学させていただいた。2回目の訪問では、Sue Ballentine氏より、プログラムの立案について、資料をもとに説明をいただいきながら、その実際を見学した。9月、新学期であったため、次週に行われるParent Meetingの内容についても触れられた。

University Village Centerの訪問に対応してくださったのは、DirectorのGerardo Soto氏。失礼ながら、女性と疑わずに訪問した筆者は、笑顔で現れて、「今、保護者に対応しているので、5分ほど待ってください。」と言って別室に入っていく後ろ姿に、「今の人がGerardo Sotoさん？えっ、男性なの？」。考えてみれば、Gerardoは男性の名前だが、実は、Krieger Centerを訪問する前には、“Gay”氏が男性なのでは？という少々の緊張感を持って訪問したいきさつがあり、結果「幼児教育には、やっぱり男性はいないわね。」と、勝手に決着をつけてしまっていた。期せずして、アメリカの男性保育者の現状について見解を聞くこともできた。

2施設ともに、現在は、単なる子どものCareに留まらず、幼児の発達やグループワークなどの幼児教育の観点から見てもプロフェッショナルなものになっていることを、Executive Director及びDirectorが語っていた。プログラム立案の方法や考え方、子ども観、英語を母国語としない子どもへの対応、親への姿勢、職員の質に至るまで、ランチなどを含む保育場面を見学しながら、実に明快な説明をいただけたことは、“異文化コミュニケーション”の体験を含めて有意義で楽しいものだった。

また、UCLAのDepartment of World Arts and CulturesのAssociate Adjunct Professorである Judy Gantz氏が展開するChildren's Creative Movementのプログラムを、Kriegar Center内で実際に見学できたことは、身体表現

を専門とする筆者にとって最も興奮する時間だった。

本稿では、訪問を通して知ったUCLA Early Care and Educationについて報告し、アメリカの幼児教育・保育の一端を紹介したい。

Ⅱ．Early Care and Educationという名称

訪問時の筆者の最大の関心は、アメリカの幼児教育・保育の内容、方法、形態などの実践的な部分や、その根底にある子ども観を知りたいという点にあった。といっても、それまでにアメリカにおける幼児教育・保育の歴史や政策を充分に理解していたわけではなく、むしろ事前にそれに関わると思われる文献を、いくつか読んでみたが、正直なところよくわからないというのが実感であった。「アメリカの幼児教育や保育には、どんな施設があるのか」「そもそも幼児教育や保育というものの定義は何か」「保育者と言われる人は、どのような資格を持ち、どこで養成されるのか」など、どうも日本のシステムほどには、すっきりと理解しにくい。

訪問時のインタビューや資料の整理から言えることは、アメリカの幼児保育・教育は、社会的ニーズに即応して様々な施設・機会が派生した「多様性」、急激な社会変動のなかで様々な対処法を打ち出してきた「柔軟性」、各州によって教育制度が異なり、9000もの学区が存在する「地域性」という特色を持っている[1)]。

アメリカにおける幼児教育・保育の歴史を概観してみる。

1855年、フレーベルの門下生であったドイツ人、シュルツがウイスコンシン州の自宅に幼稚園を開設したのが、アメリカ初のKindergarten（幼稚園）とされている。現在は、入園時期や就園年数など、州法によって定められているために様々に異なっているものの、多くは公立小学校に付設され、5歳児を対象として就学前1年間の教育を行っている。しかし、保育時間が3〜4時間であるという点を除けば、日本でいう「就学前」という感覚よりも、小学校教育の1学年と捉える感覚が強いように見える。一方、今回訪問したUniversity Village Center内のKindergartenは、小学校には付設されておらず、保育時間も8〜10時間と長く、独自の形態をとっていた。一般的には、近年は、就業女性の増加により、このような全日制幼稚園が増える傾向にあり、日本での幼保一元化に伴う「認定こども園」の開設と同じ方向に進んでいるように見える。

Nursery School（保育学校）は、Kindergartenから遅れること半世紀後の1915年に、シカゴ大学において教職員対象のCooperative Nursery School（協力保育学校）がイギリスのスタイルを移入した形ではじまり、1920年に、コロンビア大学に付設された正式な保育学校の開設が最初とされている。現在は、3、4歳児を対象とした教育プログラムの一つである。多くは半日制で、両親が共稼ぎでない子どもを対象としていると言われているが、実際は、2、3時間〜6、7時間と学校によってかなり異なっているようである。またその内容も、従来の、インフォーマルな遊び環境をもとにした子ども中心としたプログラムよりも、Kindergartenの知的カリキュラムを取り入れていることが多くなっていると言われている。

Preschool（プリスクール）と呼ばれるプログラムも、幼稚園に入るまでの3、4歳児を対象とした教育的プログラムを指す。近年急速に公教育のシステムの一部となっていると言われるが、保育時間や内容も多様である。

一方、保育所（Day Nursery, Day Care Center）の歴史は古く、植民地の時代には既に設立されていたと言われ、公式には、1833年、ボストンにおいて、漁業を営む家庭の子どもを託児するする施設であったとされている。

以上のようなアメリカ幼児教育・保育に関する歴史的変遷については、小暮[1, 2)]、橋川[3, 4)]、山田[5, 6, 7, 8, 9)]、の論文に詳細に記されている。

訪問した施設の名称ともなっている「Early Care and Education」の概念は、1970年頃からアメリカ幼児教育界において注目されてきた「ケアと教育の一元化」が意図されている。歴史的に、アメリカでは1920年代以降、幼児教育（Early Childhood Education）と、チャイルド・ケア（Child Care）の区別が強調され、チャイルド・ケアの定義から教育的目的は排除されていたのである。ところが1970年頃から、様々な社会背景

の変化、特に女性の就業率の上昇に伴い、ケアを必要とする階層が、従来の貧困層でなくなり、中流階級によるケアの依存度が高まったことなどの原因から、保育の質の向上を目指す上で、ケアと教育を一元化する議論が盛んになったと考えられている。この議論については、北野[10]の論文に論究されている。

訪問した施設も、1970 年の開設時の名称は、「UCLA Child Care Service」であり、現在は「Early Care and Education」と改称されている。訪問時に、Executive Director が、「現在の本施設でのプログラムは、単なる Care の域を脱し、Early Childhood Education として質の高いものになっている」ことを強調していた点からも、Care（保育）と Education（教育）の一元化が今日的な課題であることが伺われた。

Ⅲ．UCLA Early Care and Education の概要

ここでは、About Us（ブロシュア：写真 1 と http:/www/childcare.ucla.edu/）として掲げられている項目をもとに、訪問時に受けた説明や、資料などの解釈からの補足を加えて、UCLA Early Care and Education（以下、UCLA EC & Ed と称す）の概要を捉えてみる。

1．Mission Statement（使命）

> UCLA Early Care and Education のプログラムは、質の高い保育を提供し、家族を支え、地域社会と情報を分け合い、子どもたちの生活の向上をめざします。

2．Philosophy Statement（理念）

> 私たちは、早期の学習は人間関係を基礎にしていると確信しています。私たちの基本的目標は、子どもたち、教師、両親との信頼関係を築くことです。綿密に構築された早期教育は、探求、思考力（critical thinking）、協同での遊び、相互尊敬の発達を促進します。

写真 1　UCLA Early Care and Education のブロシュア

3．Information

> UCLA Early Care and Education は、3 つの施設を開設しています。

Fernald Child Care Center

UCLA のキャンパス内にある Seeds University Elementary School（小学校）内。この小学校は、UCLA の大学院心理学専攻の研究のための施設である。

＊ほとんどの小学校で、通常の授業時間（多くは 8：00〜15：00）の前後に Extra Care のプログラム（多くは早朝 7：00、夕方 6：00 ぐらい）があり、働く親が子どもを預けることができる。公立の小学校の場合は通常無料だが、この施設は、Extra Care については有料である。（今回は訪問していない）

Krieger Center（写真 2）

・UCLA キャンパス内、北西の端にある。
・2 歳〜5 歳までの子どもが対象。

University Village Center
& University Village Kindergarten（写真 3）

UCLA キャンパスから南へ 5 マイルほど離れたところにある University Village と称される Family Student Housing Complex（家族学生住宅団地）内にある。Family Student Housing Complex は、ひじょうに広大で、文字通り Village として街の何区画かを占めている。

この施設には、Kindergarten（幼稚園）があ

写真 2　Krieger Center
UCLA の緑溢れるキャンパス内

写真 3　University Village Center
Big yard（中庭）から

写真 4　Executive Director の
Gay Macdonald 氏と

る。

・育児資源のプログラム（Child Care Resource Program）は、毎年、1,000 組以上の家族に、個別な援助、保育、役に立つ情報を提供しています。

＊3 施設以外に、Child Care Resource Program と呼ばれる機能があり、Coordinator が、親に対して保育・育児に関する様々な情報を提供し、相談に応じる窓口となっている。

・この施設は、UCLA の学生、職員や教員の家族のためのものです。

＊Eligibility（入園の資格）：UCLA のフルタイムの学生、有給スタッフと教員を対象としており、卒業生、ボランティア、エクステンションの学生には申し込む資格がない。

＊Krieger Center では、家族数が 72 家庭（子どもの全体数は 80 名）。そのうち学生家族は 12 家庭であり、他は教職員およびスタッフ家族。これに対して University Village Center では学生家族が 60%を占める。（2005. 5）

・保育時間は、月曜日～金曜日、年間を通じて午前 7：30～午後 5：30 です。

＊UCLA EC & Ed には、長期休暇はなく、年間 243 日開いている。一般的な公立施設は年間 180 日。ただし、教師には長期休暇が交替で与えられ、その期間は代替の教師を雇う。

＊午前 7：30～9：30 ぐらいまでの間に、それぞれの家庭の都合で当園してくる。午前 9 ：30～午後 3：00 はほとんどの子がいる状態となる。

・学生家族用の保育料援助制度（Student family tuition assistance）が利用できます。

＊各家庭の収入と、家族人数などによって、保育料を援助するシステムを持っている。

＊UCLA EC & Ed は、カリフォルニア州や UCLA から援助金を受けており、その一部を学生家族のために使っている。しかし、特に Krieger Center では、それに当てられる援助金は充分ではないので、受け入れられる学生家族数は限られている。

4．Staff（表 1 に構成、勤務体制を示す）

・各クラスには、カリフォルニア州資格審査委員会（California Commission on Teacher Credentialing）から幼児発達の認可（Child Development Permits）を受けた 3 人の専任の幼児教育専門の教師が配置されます。その教師の多くは、上級の学位を取得しようとしています。

　スタッフは UCLA の職員に準じた福利（benefits）を受けています。

・UCLA Work-Study students が補助スタッフを務めています。

5．Age Groups（表 1 に示す）

＊アメリカでは、乳幼児期（Early Childhood）を、誕生から 8 歳までと見なしており、日本における小学校低学年までを含んで捉えている。アメリカにおける子どもの定義には、以下のようなものがある。

表 1　UCLA Early Care and Education（UCLA EC&Ed）の Age Groups と Staff、保育料

年齢区分	子どもの人数（1クラスあたり）	Staff の人数	MONTHLY FEES（Full-time）☆ 2003.9／2006.9
Infants			
2 ヶ月〜17 ヶ月	10 名	教師 3 名＋学生アシスタント（アルバイト）	$1,080／$1,230
Toddlers			
18 ヶ月〜33 ヶ月	8 名	教師 3 名＋学生アシスタント（アルバイト）	$1,080／$1,200
Preschool			
34 ヶ月〜60 ヶ月			
3 歳児	25 名	教師 3 名＋学生アシスタント（アルバイト）	$875／$1,000
4 歳児	25 名	教師 3 名＋学生アシスタント（アルバイト）	$875／$1,000
Kindergarten	（University Village only）		
60 ヶ月〜72 ヶ月	24 名	教師 3 名＋学生アシスタント（アルバイト）	$875／$1,000
	（子ども 8 人に対して 1 人の教師という割合）		$945（2005.9）

☆ 保育料には、朝食、昼食、スナックが含まれている。

各クラス 3 名の教師の構成とレベル

スーパーバイザー：経験豊かな教師
アシスタント
エントリーレベル：新任に類するレベル

各クラス 3 名の教師の勤務体制

1 人目：7：30〜3：30　：準備は学生スタッフが手伝う
2 人目：8：00〜4：00　：教師の昼食時間は学生スタッフが補う
3 人目：6：30〜5：30

・8 時間勤務、9：30〜3：30 は 3 人の先生が揃う。

教師の学位と資格

・UCLA EC & Ed の教師になるためには、幼児教育専攻の学士か修士の学位を持つことを推奨しており、現在はほとんどすべての教師がその条件に該当している。公立の学校であれば、学士以上が必須であるが、UCLA EC & Ed は私立なので自由に決められ、本来は必須条件ではない。ただし、公立私立を問わず、カリフォルニア州公認の Certificate（免許状）は持っていなければならない。
・UCLA EC & Ed では、教師について上記のように 3 つのレベルがあり、昇進には、経験の長さと実績を考慮し、面接試験なども科される。レベルが上がった場合にのみ、UCLA グループ内の別の施設に移ることがある。
・UCLA EC & Ed の全ての教師は、エントリーレベルやアシスタントレベルにおいても他の施設に比べてハイレベルであり、UCLA EC & Ed で 5 年以上経験すれば、他の機関では Director になれる能力を擁している。

（University Village Center、Director、Gerardo Soto 氏談）

男性保育者

・University Village Center には 3 人の男性の教師と 40 人の女性の教師がいる。
（5 年前は 10 人の男性の教師がいた。）
・男性保育者が少ない状況について、University Village Center の Director、Gerardo Soto 氏は、以下のような理由をあげていた。
① 給料の問題：家族を養っていくのには十分ではない。
② 幼児教育に興味のある男性が少ない。
小学校以上と幼児教育では、教師養成の内容がかなり異なるため、小学校など年齢の高い子どもたちを教える方に興味のある人が多い。
③ 女性の多い職場で働くことに居心地の良さを感じない。

＊女性の教師については、この施設では、ほとんどの人が結婚後や出産後も仕事を続けている。この学校では、3 人の女性の先生が子どもを持ちながら働いている。

Baby	：誕生～2歳
Neonate	：誕生～1ヶ月
Infants	：誕生～1歳（誕生後約1年）
Toddlers	：13ヶ月～3歳
Preschooler	：3歳～5歳
Child	：誕生～8歳
The very young	：誕生～5歳

6．Special Features（特徴）

- 全米幼児教育協会（National Association for the Education of Young Children：NAEYC）によって認可されました。
- ハイ・スコープ教育研究協会（High Scope Educational Research Foundation）と全米幼児教育協会（NAEYC）によって、大学をベースとした模範的な乳幼児プログラムとして推奨されました。
- 第一次的で最重要な養育者（care giver）として、また、保育における教師のパートナーとして、保護者に敬意を払っています。
- 子どもたちへの愛情に溢れ、専門性の高い教師がいるなかで、綿密に構築された環境を積極的に探求することが、子どもたちにとって最も効果的に学べるという考えに基づいた発達上の適切な（developmentally appropriate）カリキュラムを展開します。
- Preschool－Pathways to Science〈就学前の科学への道〉スタッフにより開発された子どもたちの思考力を育てる独特なカリキュラムを提供します。
- 動的な活動と静的な活動、小集団での個々の関わりと大きな集団への参加による関係づくり、子どもの自主的な活動と教師主導の活動のバランスを保った日課を提供しています。

＊National Association for the Education of Young Children〈NAEYC〉と幼児教育・保育

筆者の訪問時、Executive Director が、冒頭「この施設はNAEYC に認可されている施設です。」ということを語り、目の前のデスクにおかれたコンピューターで NAEYC のサイトを開いた。NAEYC とは何か。ここでは、NAEYC の概要にふれ、NAEYC の活動から見たアメリカの幼児教育・保育の捉え方をまとめておきたい。

NAEYC は、日本では「全米幼児教育協会」と訳されている。幼児教育・保育の実践者・経営者・研究者等の会員約 103,000 人（1999 年）からなる、アメリカ最大規模の幼児保育専門職団である。ワシントン DC に本部事務局を置き、会員は全米および海外の支部組織に所属している。研究者だけでなく実践者を多く含んでいる独特の学会組織と言われる日本保育学会の会員数が 3500 人（2006）である点から見ても、NAEYC の巨大さと機能の違いが伺われる。

その機能は、日本の保育学会のように研究発表を第一義の機能にするに留まらず、“Young Children”などの機関誌出版や研究大会などの各種行事の開催によって、乳幼児あるいは保育者のためのアドボカシー（擁護）を行い、保育実践指針の開発・公表によって幼児教育・保育実践を指導する機能を有する。また、保育プログラム（Early Childhood Program）や保育者養成大学等のアクレディテーション（設置認可、第三者評価）をするという認定行政機能をもった団体であり、審議会等への直接参加あるいは意見書を公表することによる政策形成機能や圧力団体的な機能をも持つ団体である。NAEYC の歴史や役割については、秋川[11, 12]、北野[10]の論文に詳細に論究されており、その内容は日本の幼児教育・保育の方向を考える示唆に富んでいる。

NAEYC は、1995 年に、保育の定義を以下のように公表している。「幼児期のプログラム（Early Childhood Program）とは、子どもたちの発達と知的、社会的、情緒的、言語やコミュニケーション、また身体発達に関する領域の学習が促されるように意図的にデザインされたセンターや家庭あるいは学校で行われる半日ないしは全日の集団プログラムのことである。この定義は、就学前の子どもたちおよび学校開始の前後のセンターや家庭保育あるいは Care を提供する学校でのさまざまなプログラムはもとより幼稚園や小学校低学年にも適用するものである。/ NAEYC, Revised 1995)[13]

注目すべきは、乳幼児の多様なサービスの全体を括る用語として「Early Childhood Program」を用いている点にある。それ以前 1993 年には、冒頭の書き出しは「Early Childhood Education」となっていた。教育と保育を一元化して捉えようとする意図から「Early Childhood Program」が適切と考えられるようになったのである。

しかし、実際には「Early Childhood Program」で括られるプログラムは非常に多様で、その全てを把握することは難しいと言われている。

＊NAEYC によるアクレディテーション

アメリカのすべての学校・施設は NAEYC へ認可の申請ができる。NAEYC が、各学校・施設に人を派遣して、保育室やオフィスのチェック、ドキュメント類のチェックなどを行う。それがある基準に達していれば認可される。UCLA EC & Ed は、その認可を取得している。

Ⅳ．UCLA Early Care and Education の幼児教育・保育の理念

1．Preschool と Kindergarten のプログラムの違い

Krieger Center と University Village Center の両施設の 3、4 歳児のプログラムは基本的に Preschool プログラムと呼ばれている。Gay Macdonald 氏及び 2 人の Director は、UCLA EC & Ed の Preschool プログラムについての基本理念を次のように語っていた。

『小学校でするようなテストや勉強はさせない。実体験、実生活で必要となることの学習に重きを置いている。子どもたち同士がお互いを知ること、問題解決の力をつけること、周りの子と仲良くし教師を尊敬すること、などの方がテストや勉強よりも重要と考えている。社会的なスキルや自分のからだの扱い方など、今後の人生で役に立つことを身につけさせることに意味がある。これらは Kindergarten に行く前に身につける必要がある。文字や数字や読み書きの勉強は、その後の Kindergarten や Elementary に行くための準備の、ほんの一部分にすぎない。したがって、数字や数え方などの基本的なことは教えているが、遊びやお話などと一緒に教えるように工夫している。例えば「このテーブルでは何個のスプーンがいるのかな？」と子どもに聞いて、一緒に数を数える練習をするように。』

さらに Preschool と University Village Center の Kindergarten（以下、UVK と称する）のプログラムの違いについて尋ねたところ、まず、一般的に Kindergarten ごとに、カリキュラムはかなり異なるという現状を前置きした後、以下のように説明した。

『アメリカの一般的な Kindergarten でのカリキュラムは、かなり学習中心である。文字や数字を習い、宿題も出されるしテストも行う。小学校のように学習することに重点を置いている。絵を描いたり遊んだりはあまりしない。

UVK は、その流れからすれば、かなり独特である。どちらかと言えば、小学校ではなく Preschool に近い。なぜそうなるのかと言うと、まず 1 日の保育時間が長いということに原因がある。通常の公立小学校付設の Kindergarten（UVK は小学校付設ではない）は、3 時間程度の半日プログラムであるのに対して、この施設では、午前 7：30〜午後 5：30 と長時間である。文字を読んだり、数学の初歩的なことも教えたりなど、学習面で小学校の準備となることもしているが、遊んだり絵を描いたりなどの時間も充分に取っている。学習だけでなく遊びも多くし、子どもたちにプレッシャーが掛からないようにし、また活動の中で子どもたちに多くの選択を与え、楽しみを与えるようにしている。アカデミックなことはほんの一部に過ぎない。そして、教師から教わるだけでなく、子どもたちが自分で何かを調べたり探したりということに重点を置いている。結果として、子どもたちはこの幼稚園で高いレベルのアカデミックスキルを身につけている。』

また、公立小学校付設の Kindergarten との違いは何かという質問に対しては、現状の説明と合わせて、次のように UVK の有効性を話した。

『UVK の特徴の背景として、ここの子どもたちは、ほとんど学生家族の子どもであることがあげられる。彼らは、他の幼稚園に通わせた後、アフタースクールなどの Extra Care のサービスを払うだけの金銭的余裕はない。また、この幼稚園は 7：30〜5：30 までの全日のプログラムであり、3 食（朝食、昼食、スナック）が用意される点に

おいても親のニーズに適応している。

しかし、もちろん、そのような物理的な違いだけで、親はこの園を選択してはいない。公立小学校付設の Kindergarten は、20 人の子どもに対して 1 人の教師の割合であるのに対して、UVK では、24 人の子どもに 3 人の教師（8 人の子どもに 1 人の教師）という割合を保っている。

公立なら Kindergarten の正課プログラムは無料であり、Extra Care や食事にお金がかかると言っても、ここの授業料＄945 / 月（2005/9 当時）は、決して安価だとは言えない。親は、どちらのタイプの学校に行くか、自分の要望に合った方を選んでいるため、プログラムの質が高いことをよく理解している。それは、UCLA EC & Ed への入園希望の待機リストに登録されている家族数に顕われている。最も需要が多く、スペースに限りのある Infant と Toddler クラスでは、新学期の現在 100 家族が待っている。Preschool や Kindergarten でも、20〜30 家族が常時待機している状態である。』

2．Preschool Pathway to Science の理念

UCLA EC & Ed では、Preschool Pathway to Science（以下、PrePS と称す）と呼ばれるカリキュラムの理念を掲げて幼児教育・保育が行われている。

PrePS は、1992 年以降、Gellman Cognitive Development Lab（ゲールマン認知発達研究所）と UCLA EC & Ed のスタッフが、人間の発達、脳科学、幼児教育の実践の裏付けに基づいて共同で開発し続けているカリキュラムである。

PrePS は、感覚を通して探求したり、探索したり、すでに知っていることと新しいことを関係づけたり、経験から知識をつくりあげたり、新しいスキルを身につけるようにすることを、子どもたちの生まれ持った欲求をもとにしてつくられた科学的なカリキュラムである。

そこでは、大人も子どもも、観察し、予測し，測定し、試して、記録して、コミュニケーションする学習者と見なされているのである。

このカリキュラムのねらいを達成するためには、感覚を通して学ぶということが鍵概念であり、その方法を説明するには、Thinking、Talking、

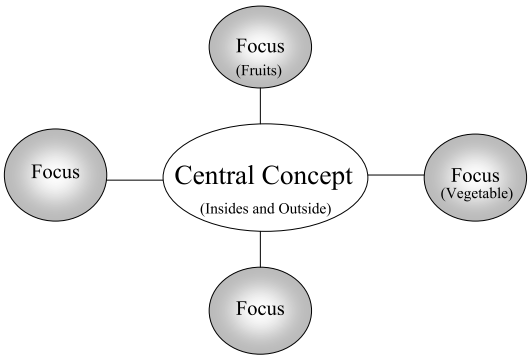

図 1　Experiences Web：Central Concept の捉え方

Working の三つの言葉が鍵になっていると考えられた。考えて、話して、活動するという一連の過程を通し、子どもにとっても教師にとっても、すばらしいアイディアをみつける楽しみや、発見する喜びといった情緒（emotions）をもとにして、思考力（critical thinking）や質問する力などが培われる。これによって、一生涯の学びを支え、高めていくための思考のパターンを形成すると考えられている。

そのための方法として、教師は、中心的な概念（Central Concept）の周囲を構成する学習経験を設計し、集団の中で子どもたちの欲求や興味に反応することが求められる。図 1 に示されるように、中心的な概念とは、実体を伴わない抽象的で科学的な原理のことと定義されている。変化、変形や変態、形態や機能、生物や無生物、エネルギー、システムや相互作用、内側と外側、のなどを指す。

例えば、“change”（変化）は、具体的な現象を調べることによって学習することができる抽象的な概念であるので、中心的な概念と考えることができる。これに対して、“water”は中心的な概念ではないが、“change”を理解する際のひとつに視点になるという考え方である。この考え方をもとにして、UCLA EC & Ed では、具体的な内容が計画されている。

University Village Center での Group 4（4 歳児）では、現在のカリキュラムの中心概念を Energy としているという以下のような一連の内容が、保護者向けの掲示版に貼られていた。

We are investigating Energy. (central concept)
though Locomotion (Sub-Category)
by exploring Body Movements (Focus)
are affected by Force Speed (Bridge)
slow vs fast, hard vs soft,

さらに、そのための最も有効な機会は、遊びであるとも述べている。新しいことを発見したり、質問したり、問題を解決する能力を開発しいく機会は、遊びのなかに溢れていると考えられているのである。教師は、そこで、新たな環境・設備を加え、言葉をかけ、遊びを拡げ高める情報を増やし、もっと複雑に、より満足度を高めることによって、遊びを豊かにすることができるとされる。そのために、教師自身も、子ども同様に探求したり探索したりすることが求められ、子どもの成長を見る喜びを糧に、教師同士も協同して、このカリキュラムを立案していくことが必要としているのである。

PrePS に見られる保育観は、「脳科学」という側面との関連が充分に理解できない部分として残されるものの、「遊びを通した子どものたちの自主活動を重視する」点において、我が国の保育観との共通点も多く認められ興味深く感じられた。後章では、PrePS の理念とつなぎあわせながら実践をまとめておきたい。

V．UCLA Early care and Education の実践

1．カリキュラムの立案

UCLA EC＆Ed では、3 施設合同で、1 ヶ月に 1 回ミーティングを開き、カリキュラムや教師の配置等について話し合っていると語られた。ミーティングの場所は、3 施設でローテンションする。子どもたちの昼寝の時間に、メインの教師が出席する形式をとり、その時間はパートタイムの教師が補助に入るとのことだった。

カリキュラムは、1 日の初めから終わりまで充分に計画を立てて作成していることが強調されていた。カリキュラムの立案については、1 日の中で、活発に動く時間と静かな時間のバランスを保つようにし、同時に教師が子どもたちに教え導く部分と子どもたちが教師の設定するアクティビティの中から自分で好きなものを選ぶ部分を混ぜるように配慮される。アクティビティは、子どもたちが興味を持ち楽しめる、面白くやりがいがある、友情や責任感を身につけられるなどの視点で選ばれる。

また、1 週間単位の計画が施され（写真 5）、保護者用の掲示板には、カテゴリー別（Science exploration, Sensory Skills / Creativity, Language & Literacy, Mathmatics & Numeracy, Music & Movement など）に、一日の午前と午後の内容が示されていた（写真 6）。

全クラスのカリキュラムの調整は、ディレクターとカリキュラムコーディネーターが行い、ディレクターが毎週教室内を見て回って、カリキュラムに基づいてやっているかどうかのチェックを行っているとのことだった。

2．Daily Schedule

ここでは、Krieger Center の Group 4、4 歳児のクラスと、University Village Center の Group 6 における DAILY SCHEDULE（表 2）をもとに、形態、内容、方法などの実践的な部分

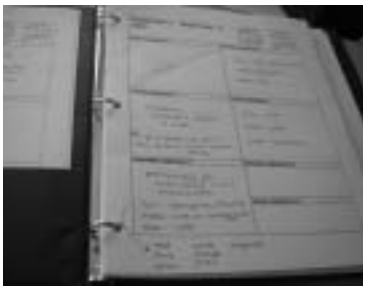

写真 5　Curriculum for the week (Krieger Center)

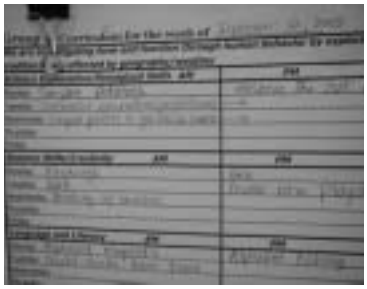

写真 6　Curriculum for the week (University Village Center)

写真 7　Experiences Web

表 2　DAILY SCHEDULE

Kriger Center Group 4（4 歳児クラス）	
7:30	Open ①
7:30- 8:50	Breakfast is available ②
7:30- 9:00	Inside Activities - Dramatic play - Large / Small Motor block construction - Computer - Writing Table - Science Exploration
9:00- 9:25	Inside / Outside Activities
9:25- 9:30	Clean up ④
9:35- 9:55	Group Time #1 - Good Morning Greeting - Stories Homework - Mystery Box - Math / Lang. Development Information about upcoming events or schedule changes
9:55-10:45	Outside Activities - Art - Gross / Small Motor - Science -Sand / Water Play -Blocks
10:45-11:25	Group Time #2 - Language - Science - Math Development - In small groups
11:25-12:10	Outside Activities - Dramatic Play- Books - Sand Water Play- Gross / Fine Motor
12:10-12:20	Transition / Toileting ③
12:20-12:50	Lunch ⑤
12:50- 1:15	Outside Activities
1:15- 1:30	Transition / Toileting
1:30- 3:00	Rest Time / Naptime ⑥
3:00- 4:15	Snack / Big Yard-Sand / Water Play - Gross / Fine Motor
4:15- 4:30	Group Time #3 - Celebrations - Afternoon News - Stories - Finger plays Movement - Games
4:30- 5:15	Outside Activities
5:15- 5:30	Inside storytime
5:30	Closing

University Village Center Group 6（3、4、5 歳児混合クラス）	
7:30-10:15	Greeting and Indoor activities art, math, sciences ①
8:00- 8:15	Self serve Breakfast ②
9:00- 9:15	Toileting ③
9:15-10:15	Indoor activities ⑦ Dramatic lay, library, writing Outdoor activities Large motor, sensory, dramatic play
10:15-10:30	Clean up time ④
10:30-10:55	Small group time science and language
11:00-11:45	Outdoor play: big yard
11:45-12:00	Group transition to lunch
1200-12:30	Family style lunch ⑤
12:30-12:40	Preparation for rest time : cots, toileting, quiet reading
12:40- 2:40	Naptime, quiet reading ⑥
2:45- 3:45	Snack and Inside Choices
3:45- 3:50	Clean-up and transition to inside group times
3:50- 4:05	Large group time （music and movement）
4:05- 5:05	Outside activities
5:05- 5:10	Clean-up outside activities
5:10- 5:30	Quiet stories in library Goodbyes

① 保護者の送り迎え

・来た時と帰る時に保護者がサインをする。
・保育室の Parent's Info（親向けの掲示板）の所まで入ってくることができ、先生や園からの情報（カリキュラムの中で使う本のリスト、カリキュラムの中で使うボキャブラリのリスト、ウェブ）や、保護者会の情報、返却物についての情報をチェックする。

写真 10　保護者向けの掲示板

② 朝食

・クラスの教師が、シリアル、トーストなどの簡単なものを用意する。

写真 11　調理室

③ Toileting

・男児と女児で共有している。
・トイレの数は足りているのか？：トイレを使う時間が重なることはないように配慮している。例えばランチの前では、クラスの子を全員連れてくるわけではなく、8人ほどのグループに分けて連れてくるので、うまく機能している。

④ 清掃

・先生が手伝いながら日常的には子どもたちと行っているが、本格的な掃除は業者が毎日夜間に行っている。

⑤ 昼食

・コックは 1 人。毎日 8：00〜5：00 で働いている。
・3 人の子どもたちが交代で当番となり、先生と一緒に食事を乗せたワゴンを調理室から教室まで運んでいた。
・この日（5 月訪問時）のメニューは、フライドライス、りんご、グリーンピース、ミルク。子どもたちの好きな食べ物はライス、パスタ、ブロッコリー、カリフラワー、チキン、トマトスープ、チーズサンドイッチなど。アメリカの食文化を象徴しているという印象を受けた。
・Kriger Center では、食器は紙皿で使い捨て。施設が手狭で十分な数の食器洗い機がないので、使い捨てのお皿を使っているという説明を受けた。
・Krieger Center では、教師は子どもたちに食べ方などを見せるために食べ物を口にすることはあるが、昼食は別にとる。（訪問時には、外出していく様子の教師の姿を目にした。）University Village Center では、教師は子どもと一緒に昼食をとる（用意するランチの数は子ども用：115 食、教師用：40 食）。この違いは、調理設備の充実度の違いと思われた。
・食事している時の子どもたちとの会話の中でも、教師は自然に数の数え方などを教えるなどの工夫をしている。

写真 12

⑥ 昼寝

・Cot を使用して保育室内で寝る。Cot は年齢によって高さが異なっていた。
・着替え用の洋服、昼寝用のシーツ、毛布は、親が用意して持ってくる。Infant クラスのおむつは園が用意する（保育料に含まれている）。

写真 13　3 歳児用 COT（昼寝用のベッド）

写真 14　COT の片付け方

写真 15　COT CHART/COT の並べ方

⑦ 保育室内：「Science Center」「Library」「Quiet Area」「Dramatic play」などのテーマごとにセクションで分けられている。1 年に 3 回ほど教室内の配置を変えている。

をまとめておきたい。

University Village Center の Group 6 は、3歳から5歳になった（次の年に幼稚園へ）子どもの混合のクラスであった。子どもたちは、2年間このクラスで生活することができる。このクラスには、18人の子どもが在籍し、3人の教師が保育にあたっていた。通常、クラス内における子どもの年齢幅は1歳〜1歳半であるのに対して、このクラスは2歳〜2歳半の幅がある。各年齢の子どもに与えられるプログラム内容は、他の同年齢の子と同じなので、このクラスでは、3歳児・4歳児・5歳児と3つの異なるカリキュラムを用意しなければならない。教師は、他のクラスよりも多くの配慮が必要なので、子どもの数を他のクラスより少なくしている。

3．Activities の実際

⑴　Activities の形態

Krieger Center の Group 4 における Activities は、通常1グループ8〜9人、3グループ別に行う。例えば、粘土作り、絵を描く、お話の時間の、3つのアクティビティを設定し、それらを3つのグループでローテーションし、同じ時間に異なるアクティビティを行なう。各グループはおおよそ3日間のうちに全てのアクティビティを行うことになる。

訪問時には、絵を描くグループの様子を見学した。子どもたちが鏡を見ながら自分の絵を描いていた。子どもたちが自分で見たものをどのように紙に描き表すかという点で、描き始めた頃からの発達・進歩を見ることができ、子どもたちの成長を追うのにとても良い方法と捉えているという説明が加えられた。

⑵　Activities の内容と方法

－1）Ocean Life のアクティビティ

Krieger Center への訪問時（2005. 5）に、Group 4 で展開されていた Ocean Life、さらには哺乳類比較のトピックにもとづくアクティビティである。

UCLA EC & Ed では、Preschool Pathway to Science の理念をアクティビティとして具現化するために、「Experiences Web」（写真7）という書式を用いてカリキュラムを構想し立案していた。この Web は、保護者向け掲示板にも掲げられており、両親とのパートナーシップの確立という目標を大きく掲げ続けているアメリカの幼児教育・保育の方向性を垣間見る感じだった。また同時に、視覚に訴えることを重視する情報の開示という印象を受けた。

このアクティビティは、「Inside-Outside」という Central Concept を「Ocean Life」という視点から探索、探求していくアクティビティである。「海の生き物の種類」「海の生き物の食べ物」といった Concept を掲げ、「海に生きる生物の種類：植物、哺乳類、深海魚」「生息地：海の内側と外側」の Goal が設定されている。

まずは、「哺乳類 mammal」「魚 sea fish」などの言葉の定義から始められる。子どもたちが言葉の意味を知っていればそのまま次に進むが、知らなかったら本を読んだりして、そこからより多くの情報を得て、その言葉を学ばせる。

「哺乳類とは何か」を知り、そのうえで、人間（ourselves）と海の哺乳類との違いを話し合う。環境や生息地、食べ物といった視点から比較させる。例えば、鯨は海に住めるが、人間は海には住めない、なぜ？の疑問を投げかけ、鯨の絵を描きながら、その機能の違いを学ぶ。

次いで哺乳類の子どもの生み方を、他の生物と比較する。人間の赤ちゃんと鯨の赤ちゃんとを比較して共通点を調べて描き表した絵が保育室に貼られていた。赤ちゃんには、人間と鯨のどちらにも2つの目がある様子などが描かれ、その横に先生のコメントが書かれていた。

このアクティビティは、1日のスケジュールの中で、毎日30分程度、教師と一緒に行われており、今週は午後の時間が当てられている。子どもたちは、3つのグループに分かれローテーションしながら学ぶ。訪問した日の3つのグループ名と、その活動内容は以下のようであった。

Sun グループ：海に関連した名称の勉強
Moon グループ：海に関連したゲーム・パズル
Star グループ：海に関連したお絵かき

このアクティビティは、今後、他の生物との比較へと発展させる予定となっており、次週には Story Car を使い、人間と海の哺乳類の類似点に

ついての文章を読み、ディスカッションして、まとめさせる計画が用意されていた。

1つのトピックについて様々な学習の過程があり、その期間は子どもたちがそのトピックにどれだけ興味を持っているかを見極めて判断していく。子どもたちが興味を示さなければ、他のトピックに変更することもありうると説明された。

－2）柑橘類のアクティビティ

Krieger Center の Group 4 で、2005年8月に行なわれた「フルーツ、特に柑橘類」のトピックにもとづくアクティビティである。

まず、子どもたちとレモンの調査を行い、レモンについて学んだ後、レモネードの作り方を学ぶ。水・砂糖の分量を知り、子どもたちが自分で作る。また、レモネードの屋台を作って、チケットを配り、他の子どもたちにも、そのレモネードを配る。

次いで、他のフルーツに目を向ける。レモン・ライム・オレンジ・グレープフルーツなどについて、色・サイズ・形・匂いを比較し、その違いを学ぶ。多くの子どもたちは、レモンやグレープフルーツは好きではなく、オレンジ・タンジェリンを好む。そこで、オレンジとタンジェリンの味や匂いの違いを調べる。

教師の役割は、「これがオレンジ」と教えることではなく、子どもたちが探索・調査・発見するのを手伝うことである。その際に、子どもたちに答えを導き出させるような質問をする。例えば、「どっちがオレンジ？どうして分かるの？」。子どもたちは、味・匂い・感触を通して、また虫眼鏡を使って形や中身の違いを比較することで、それが何かを理解する。こっちには種があってこっちにはない、などのように。

このアクティビティでは、本を読んだりすることよりも、実際に自分でその果物を体験することで知識をつけていくことがポイントである。

－3）ミステリーボックスのアクティビティ

Krieger Center への訪問時（2005.9）に、Group 4 で、次週から行なう予定として説明を受けたアクティビティである。

前週が新年度の始まりで、新しい子どもたちがたくさん入ってきた。現在は、子どもたち同士の関係を作り上げることに重点を置いている。ウェブを使った科学的なカリキュラムはまだ行っていない。新しい子どもたちがなじめるように、子どもたちがお互いを知る活動を行っている。具体的には、「お互いのことを知る」「グループに分ける」「グループの名前や色を決める」という内容である。グループの名前や色は、3つのグループそれぞれで、多数決により子どもたちが決めている。1年の間には、別の色に変えることもあるが、その時も子どもたちによって決める。それによって、子どもたちはクラスの一員として他の子どもたちと一緒にやっていくことを覚える。

次週からは、ひとつのグループはミステリーボックスのアクティビティを行う。

ミステリーボックスと呼ばれる木の箱を子どもたちが順番に家に持ち帰る。家で親と一緒に、1つのものを箱の中に入れ、親がその入れたものに関するヒントを3つ作成する。次の日、子どもがその3つのヒントをみんなの前で発表し、他の子どもたちは箱の中に何が入っているのかを当てる。はじめは親がヒントを紙に書いているが、1年のうちに子どもたちがスペルを習ってそれも自分で書けるようになる。

箱の中に入れる物は、えんぴつ、スプーン、なべ、おもちゃ、トイレットペーパーなどがある。食べ物・生き物、腐る物は入れないことにしている。月曜から木曜まで、毎日別の子どもが箱を持ち帰って考えてくる。週末を挟んでしまうと月曜日に持ってくるのを忘れるから、金曜日は持ち帰らせない。

ミステリーボックスの目的は、思考力（critical thinking）を養うことである。ヒントをもとに答えを導き出す考察力や結論を出すまでの考える力を培う。多くの情報を与えるのが目的ではなく、1つの新しい情報から何を導き出すかということに重点を置き、考える習慣をつけさせる。

別のグループは、科学の道具を使ったアクティビティを行う。メジャー・虫眼鏡・はかりなどを使って、周りのものを調査し、観察結果を他の子どもたちの前で話すというものである。（写真19）

写真 16　保育室（UVK）

写真 17　机に座っての学習内容

写真 18　Literacy のセクション

4. Kindergarten のプログラム（写真 16～18）

University Village Center の Kindergarten（Group 5）では、午前・午後に、小学校 1 年生の準備のための読み書き、算数などの基礎的な内容を学習する時間が設定されている。学習時間は、みんな一緒に同じものを勉強しているわけではなく、子どものレベルによって難易度が分かれている。ある子はアルファベット大文字の練習、別の子は小文字の練習などのように。机に座っての勉強が終わったら、引き続き教室内のどのセクション（Literacy、Science、Math など）に行くか自分で選んでアクティビティを行う。

宿題は、1 週間に 2 回ほど出される。子どもたちが自分で家に持って帰る。学習した内容や宿題などの全てのペーパーワークは、1 人 1 ファイル、学校に入った初めの日から最後の日まで全てのものがまとめられる。その子が学校の中でどう成長したか、その過程を追うことができる。

5．年間行事や特別なプログラム

⑴　行事の考え方

UCLA EC & Ed では、日本で通常行われている行事、例えば運動会や発表会のような形式の行事は行われていない。楽器演奏やダンスなどは日常的には行っているが、それをパフォーマンスとして親たちの前で演じることはしていない。一方で、親たちの中で料理や楽器演奏など得意なものがあれば、クラスに来てそれらを子どもたちと一緒にやることはいつでも歓迎している。

様々な文化の家族を受け入れているため、ある特定の文化のためだけのお祝いごと、例えばクリスマスなども行わない。

写真 19　ボディプリントの製作
子どもたちは虫めがねを手に探索遊び（Krieger Center）

⑵　誕生日

誕生日の行事は、セレブレーションと呼ばれ、クラスみんなでお祝いをする。子どもたちがそれぞれの誕生日の前に、家で親と一緒にバースデーカードを作って持ってくる。家族の絵を描いたり、好きな写真を貼ったりしている。センターでは、子どものボディプリント（写真 19）を作る。紙の上に横になり体の形に切り取り、自分の顔を描く。他の子どもたちからの誕生日カードを集めて、その子のためのスペシャルブックも作る。

⑶　水泳や体操のプログラム

夏季の水泳や体操（タンブリング）のプログラムは、UCLA 内のレクリエーションセンターや体操体育館にて、専門のインストラクターによって行なわれている。教師が引率する。

⑷　Children's Creative Movement

9 月、Krieger Center を訪問した際には、

「Children's Creative Movement」のプログラムが行なわれていた。

「Children's Creative Movement」は、UCLA, Department of World Arts and Cultures（国際芸術文化学部）の Associate Adjunct Professor, Judy Gantz 氏が主催する Foundation「Center for Movement Education and Research」のプログラムである。子どもだけでなく一般成人など様々な対象に向けての、ダンス・身体運動による教育プログラムを開発し実践している。

Krieger Center では、1 週間に 1 回 30 分、3 歳と 4 歳のクラスがそれぞれ 2 グループに分かれて、このプログラムを受けている。インストラクターの若い女性（UCLA で学生の指導も行っている）が指導を行なっていた。この日のクラスでは、以下のような活動を行っていた。

- 音楽に合わせて、歩く、走る、座るなどの動作を行う。
- 「頭をさわってみましょう」「あごと膝をくっつけてみましょう」などのように、身体部位を触ったりくっつけたりして身体を意識させる。
- 「速く動いてみましょう」「ゆっくり歩いてみましょう」などのように、身体の動かし方のバリエーション（速度など）を体験させる。

このような活動は、筆者も身体表現あそびとして、幼児あるいは学生を対象に行っており、「身体で動く感覚を通して、身体意識を高める」ことを目的としたプログラムと推察された。

⑸　保護者会、親への対応

毎年 9 月に行われる。スタッフがプレゼンテーションする形式で行う。

親からの要望や意見の対応を質問したところ、「学校の哲学に合っているものならば受け入れるが、そうでなければ受け入れない。親がいろいろと言うのは構わないが、学校としては哲学に基づいて、何をする・しないを決定する。親が子どもにこれをやらせて欲しいと、学校の哲学に合わないものを要望してきても、それは家でやってもらうか、気に入らないなら他へ移ってもらう。」と強い口調の答えが返ってきた。

⑹　英語の話せない子どもへの対応

1 クラスに 2〜3 人程度、英語を母国語としない子どもがいる。現在（2005. 5）の Group 4 では、1 人がスウェーデン語、1 人がオランダ語を話す。教師は、絵やジェスチャーを用いて英語を教えていく方法に慣れている。初め全く話せない子でも 3 ヶ月程度で話し出す。ただし、その子たちの親には、家庭では母国語を話すように薦めている。ここでは、それぞれの母国語の力を伸ばしてあげることはできないし、子どもたちに母国語を話す力を失って欲しくないと考えている。

Ⅵ．むすびにかえて

5 月、ロサンゼルスを訪れた折、UCLA のキャンパスや周辺のストリートに、ジャカランタの花が美しく咲いていた。あまりに巨大で重厚で芸術的ですらある UCLA の諸施設に比較すれば、素っ気ないほどにこじんまりした Krieger Center の建物。University Village Center も建物は新しいが、日本の幼稚園・保育園との設備的な差はなく、むしろ日本のような広い園庭がないせいか、コンパクトで家庭的な雰囲気が強く感じられる。

9 月、新学期を迎えたばかりの UCLA EC & Ed。新しい子どもたちへの対応に心を砕く様子は、いずこも同じ。保育室の壁に大きく貼ってあった「けんかの解決」に共感する。けれど、これって誰のために貼ってあるの……。

CONFLICT RESOLUTION（けんかの解決）
やめさせる（子どもを離して座らせる）
気持ちを確認する
子どもたちが問題を述べる（わけを言う）
問題を明らかにする
解決方法をみつける
まとめる

UCLA Early Care and Education の訪問という貴重な経験から、アメリカの幼児教育・保育の一端を知ることができたことを嬉しく思いつつ、アメリカの土壌を理解しないとわかりにくく感じられる部分も多く生まれてきた。

University Village Center の敷地内、筆者にはそう見えたのだが、実は「隣りの敷地」に「別

の施設」。名前は University Parents Nursery School。渡り廊下を挟んで塀も柵もない隣地に、UCLA 関連の施設ではあるものの異なるディレクターにより運営され、カリキュラムも全く異なる全く別の施設とは……。

2 歳半〜5 歳の子が対象。時間と日にちを選べる。例えば、午前中だけ来る、午後から来る、週に 2 日だけ来る、毎日フルタイムで来るなど親が選べる。全ての家族が 1 ヶ月に 8 時間のボランティアをしなくてはならない。授業料は＄675/月と University Village Center よりも少し安い。University Village Center の方で待ちリストにいる間、こちらの Nursery School に通う家族もいる。と、Soto 氏がよどみなく説明する。それでも「全く別の施設です」。なんとも理解しにくい。まさにニーズに柔軟に対応するという状況であり、アメリカの幼児教育・保育の「多様性」と「柔軟性」そのものを見せられた感じであった。

UCLA EC & Ed の保育内容や教師の能力についても、Director らの自信に溢れた説明を聞く限りには、充分にその質の高さが伺われた。けれど、これがアメリカにおいて、どの程度の水準や位置づけにあるのかまでは判断の材料がない。そもそもアメリアの「標準」があるのかが不明。ただし、UCLA の学生やロサンゼルスに暮らした日本人からは、「敷居が高い印象」「レベルが高い感じ」「アメリカの保育所らしくない。他はもっと“託児所的”」との声が聞かれた。

限られた時間では、もう一つの大きな関心事の保育者の資格や養成システムを理解するに至らなかった。こちらもかなり複雑そうである。

多様なアメリカを垣間見て感じたこと、それは日本の保育が、ある一方向に一辺倒になりすぎず、子どものために、子どもとともにつくるための真の「柔軟さ」を合わせ持つことも、時として必要なのでは、ということだった。

【引用・参考文献】

1）木暮美香、諸外国の保育制度について（1）－アメリカにおける幼児教育の考察から－、育英短期大学研究紀要：19、2002、pp. 47-56

2）木暮美香・千羽喜代子、アメリカの幼児教育、靖淵：大妻女子大学家政学会：44、2001、pp. 20-24

3）橋川喜美代、アメリカにおける幼児教育課程の改革、教育方法学研究：17、1991、pp. 107-115

4）橋川喜美代、アメリカの幼児教育、教育と医学：51（2）、慶應義塾大学出版会、2003、pp. 173-180

5）山田 敏、アメリカ合衆国の幼児教育の研究－1－ アメリカのデイケアについて、信州大学教育学部紀要 65、1989、pp. 75-84

6）山田 敏、アメリカ合衆国の幼児教育の研究－2－ アメリカのデイケアについて、信州大学教育学部紀要 67、1989、pp. 73-82

7）山田 敏、アメリカ合衆国の幼児教育の研究－3－ アメリカのデイケアについて、信州大学教育学部紀要 68、1990、pp. 115-124

8）山田 敏、アメリカ合衆国の幼児教育の研究－4－ アメリカのデイケアについて、信州大学教育学部紀要 68、1990、pp. 135-144

9）山田 敏、アメリカ合衆国の幼児教育の研究－5－ アメリカのデイケアについて、信州大学教育学部紀要 70、1990、pp. 99-110

10）北野幸子、アメリカの幼児教育におけるケアと教育の一元化に関する議論、幼年教育研究年報：20、1998、pp. 35-42

11）秋川陽一、現代アメリカにおける幼児保育改革の展開と全米幼児教育協会の活動、文部省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究 C、課題番号 07610298）、1995

12）秋川陽一、アメリカ合衆国における保育者養成制度改革の方向性－全米幼児教育協会の立場表明文書の分析を中心に－、関西教育行政学会紀要：教育行政研究：20、1993、pp. 27-37

13）大戸美也子、アメリカ 諸外国における保育の現状と課題、日本保育学会編、世界文化社、1997、pp. 7-19

附記

今回の訪問に際して、当時 UCLA・Extension で学んでいた濤川晴美氏、UCLA 出身の本守美織 Mary 氏、UCLA にて在外研究中だった鈴木英樹氏に多大なる御支援をいただいたことを感謝いたします。

Nagoya Ryujo (St. Mary's) College, Annual Report of Studies, Volume 28, 2006

Early Childhood Education and Care in the United States
— UCLA Early Care and Education —

Suzuki, Yuko*

This paper reports the early childhood education and care in the United States through the record of the visit to University of California, Los Angeles Early Care and Education. At first, it summarizes the history and system of early childhood education and care in the U.S. It goes onto analyze the feature, philosophy, curriculum, and practices of the institution. In addition, the paper describes the difference between kindergarten and preschool in the US .

キーワード：アメリカの幼児教育・保育（early childhood education and care in the United States），幼稚園（kindergarten），プリスクール（preschool）

**Nagoya Ryujo (St. Mary's) College*